

第3章 ハローワークに来所した中途退学者の実態②：中退後の就職活動

本章では、就職活動の開始時期、ハローワークを通じた就職活動、中退直後の希望と実際、就職活動の状況、支援の利用状況について整理する。なお学校種別ごとに見る際には大学院中退者はサンプルサイズが小さいため参考値とする。

第1節 ハローワークを通じた就職活動の開始

はじめに調査対象者の現在の就業状況を確認する。

図表3-1によれば、「就職活動のみをしている」という割合が最も高く半数を占め、特に男性で54.8%と高くなっている。就職活動をしながら働いているのは全体の4分の1だが、非正規雇用で働いている割合が男性で24.3%、女性は26.6%となっている。男性は30代前半を除くと年齢が若いと「就職活動のみをしている」割合が高くなり、年齢が高くなると「就職活動中だが、進学や資格取得のために勉強している」割合が高くなる。女性は10代と20代後半で「就職活動のみをしている」割合が高いが、20代後半は就職活動をしながら非正規雇用で働いている割合が高い。

図表3-1 現在の状況（年齢）

		就職活動のみをしている	就職活動中だが、非正規雇用で働いている	就職活動中だが、正規雇用で働いている	就職活動中だが、進学や資格取得のために勉強している	その他	無回答	合計	N
男性	10代	67.5	15.0	2.5	2.5	2.5	10.0	100.0	40
	20代前半	53.7	29.9	1.4	8.9	4.6	1.4	100.0	281
	20代後半	53.1	22.2	3.9	15.5	4.8	0.5	100.0	207
	30代前半	58.8	18.8	3.8	15.0	2.5	1.2	100.0	80
	30代後半	50.0	19.6	8.7	19.6	2.2	0.0	100.0	46
	無回答	55.6	16.7	5.6	22.2	0.0	0.0	100.0	18
	全体	54.8	24.3	3.1	12.4	4.0	1.5	100.0	672
女性	10代	57.1	23.8	0.0	11.9	0.0	7.1	100.0	42
	20代前半	44.4	35.9	3.5	13.1	2.5	0.5	100.0	198
	20代後半	53.4	17.5	5.8	17.5	4.9	1.0	100.0	103
	30代前半	49.0	14.3	6.1	22.4	8.2	0.0	100.0	49
	30代後半	47.1	17.6	0.0	11.8	23.5	0.0	100.0	17
	無回答	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	100.0	8
	全体	48.7	26.6	3.8	15.3	4.3	1.2	100.0	417

学校種別ごとにみるとサンプルサイズにばらつきがあるが（図表3-2）、男女とも大学中退者で「就職活動のみをしている」という割合が低い。

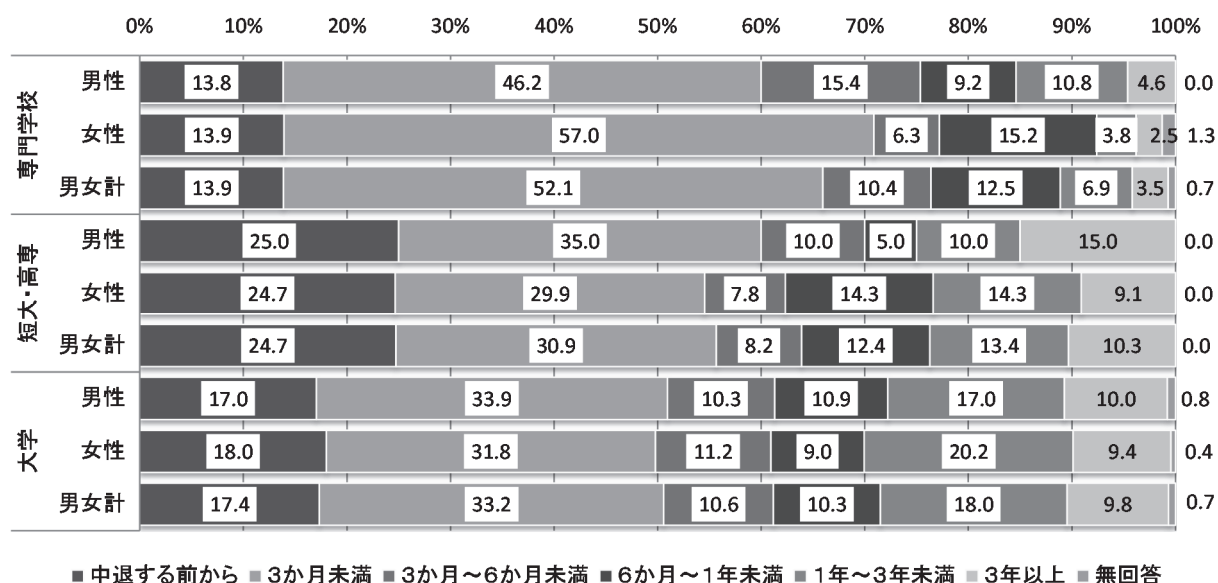
図表 3-2 現在の状況（学校種別）

		就職活動 のみをし ている	就職活動 中だが、 非正規雇 用で働い ている	就職活動 中だが、 正規雇用 で働いて いる	就職活動 中だが、 進学や資 格取得の 為に勉強 している	その他	無回答	合計	N
男性	専門学校	64.6	21.5	4.6	6.2	3.1	0.0	100.0	65
	短大・高専	65.0	10.0	0.0	20.0	5.0	0.0	100.0	20
	大学	53.3	25.5	3.3	12.6	3.6	1.7	100.0	522
	大学院	51.4	21.6	0.0	16.2	10.8	0.0	100.0	37
	その他・無回答	57.1	21.4	3.6	10.7	3.6	3.6	100.0	28
	全体	54.8	24.3	3.1	12.4	4.0	1.5	100.0	672
女性	専門学校	57.0	26.6	3.8	8.9	1.3	2.5	100.0	79
	短大・高専	70.1	14.3	1.3	7.8	3.9	2.6	100.0	77
	大学	39.1	30.0	5.2	19.3	6.0	0.4	100.0	233
	大学院	50.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0	12
	その他・無回答	43.8	43.8	0.0	12.5	0.0	0.0	100.0	16
	全体	48.7	26.6	3.8	15.3	4.3	1.2	100.0	417

次に中退後に就職活動を始めまでの期間を学校種別ごとにみると（図表 3-3）、短大・高専中退者では「中退する前から」が4分の1を占める。専門学校中退者は3ヶ月未満というカテゴリで高く、全体として早い傾向が見られる。大学中退者はもともと遅く、1年以上を要した割合が3分の1を占めている。

図表 3-3 中退後に就職活動を始めまでの期間

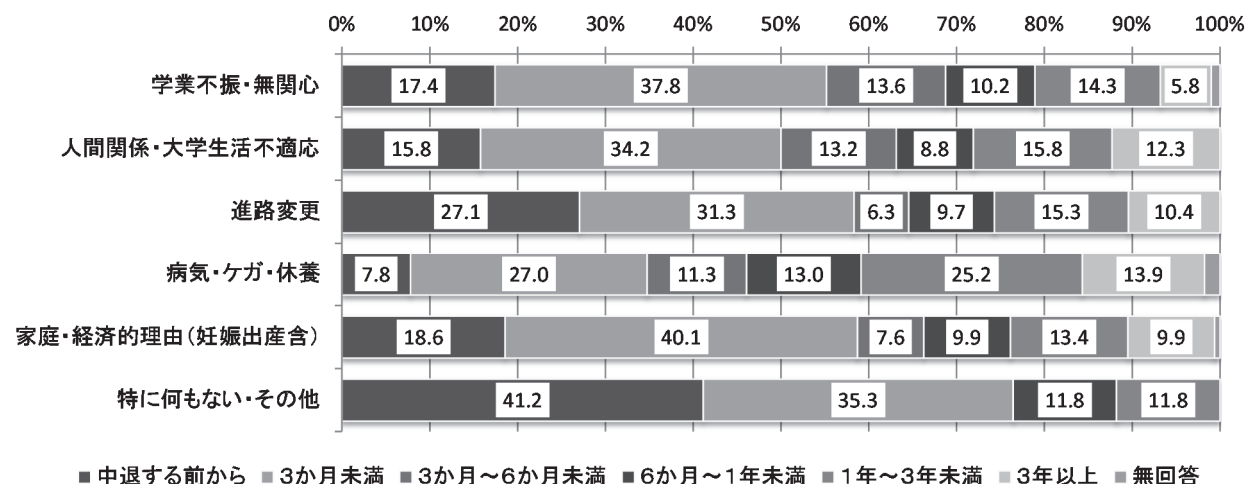
		中退する 前から	3か月未満	3か月～6 か月未満	6か月～1 年未満	1年～3年 未満	3年以上	無回答	合計	N
男性	専門学校	13.8	46.2	15.4	9.2	10.8	4.6	0.0	100.0	65
	短大・高専	25.0	35.0	10.0	5.0	10.0	15.0	0.0	100.0	20
	大学	17.0	33.9	10.3	10.9	17.0	10.0	0.8	100.0	522
	大学院	29.7	32.4	16.2	2.7	10.8	8.1	0.0	100.0	37
	その他・無回答	14.3	42.9	14.3	3.6	10.7	10.7	3.6	100.0	28
	全体	17.6	35.4	11.3	9.8	15.6	9.5	0.7	100.0	672
女性	専門学校	13.9	57.0	6.3	15.2	3.8	2.5	1.3	100.0	79
	短大・高専	24.7	29.9	7.8	14.3	14.3	9.1	0.0	100.0	77
	大学	18.0	31.8	11.2	9.0	20.2	9.4	0.4	100.0	233
	大学院	41.7	33.3	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	100.0	12
	その他・無回答	31.3	37.5	18.8	0.0	12.5	0.0	0.0	100.0	16
	全体	19.7	36.5	10.1	10.6	15.3	7.4	0.5	100.0	417
男女計	専門学校	13.9	52.1	10.4	12.5	6.9	3.5	0.7	100.0	144
	短大・高専	24.7	30.9	8.2	12.4	13.4	10.3	0.0	100.0	97
	大学	17.4	33.2	10.6	10.3	18.0	9.8	0.7	100.0	755
	大学院	32.7	32.7	16.3	2.0	10.2	6.1	0.0	100.0	49
	その他・無回答	20.5	40.9	15.9	2.3	11.4	6.8	2.3	100.0	44
	全体	18.4	35.8	10.8	10.1	15.5	8.7	0.6	100.0	1,089



大学等の中退した理由と中退後の就職活動開始時期との関連はあるのだろうか（図表3-4）。最も重要な中退理由が「進路変更」の場合は「中退する前から」就職活動を始めている割合が27.1%を占めるが、「病気・ケガ・休養」を理由とする場合には、就職活動の開始時期までに時間がかかっている。中退理由によって、就職活動開始時期にはばらつきが見られる。

図表3-4 最も重要な中退理由と中退後の就職活動開始時期との関連

	中退する 前から	3か月未満	3か月～6 か月未満	6か月～1 年未満	1年～3年 未満	3年以上	無回答	合計	N
学業不振・無関心	17.4	37.8	13.6	10.2	14.3	5.8	1.0	100.0	413
人間関係・大学生活不適應	15.8	34.2	13.2	8.8	15.8	12.3	0.0	100.0	114
進路変更	27.1	31.3	6.3	9.7	15.3	10.4	0.0	100.0	144
病気・ケガ・休養	7.8	27.0	11.3	13.0	25.2	13.9	1.7	100.0	115
家庭・経済的理由(妊娠出産含)	18.6	40.1	7.6	9.9	13.4	9.9	0.6	100.0	172
特に何もない・その他	41.2	35.3	0.0	11.8	11.8	0.0	0.0	100.0	17
全体	18.2	35.5	10.9	10.3	15.7	8.8	0.7	100.0	975



続いて、今回の対象者はハローワークの利用者であるので、ハローワークを利用しようと思った時期の分布を確認する（図表3-5）。ハローワークの利用を思い立つ時期としては、「中退する前」が16.7%を占めており、中退後1年未満があわせて50.2%と、中退以前から中退後1年未満までがおよそ半数を占めている。ハローワークを利用する層においては、比較的中退後早い時期に利用が意識されていると言える。

学校種別ごとに見ると、大学院中退者はサンプルサイズが小さいが中退以前から利用しようと思う割合が高く、また専門学校中退者は中退後3ヶ月未満が多くなっている。しかし短大・高専中退者や大学中退者は、中退後ハローワークを利用しようと思うまでの期間が長くなっており、就職活動の開始時期と共通した傾向となっている。

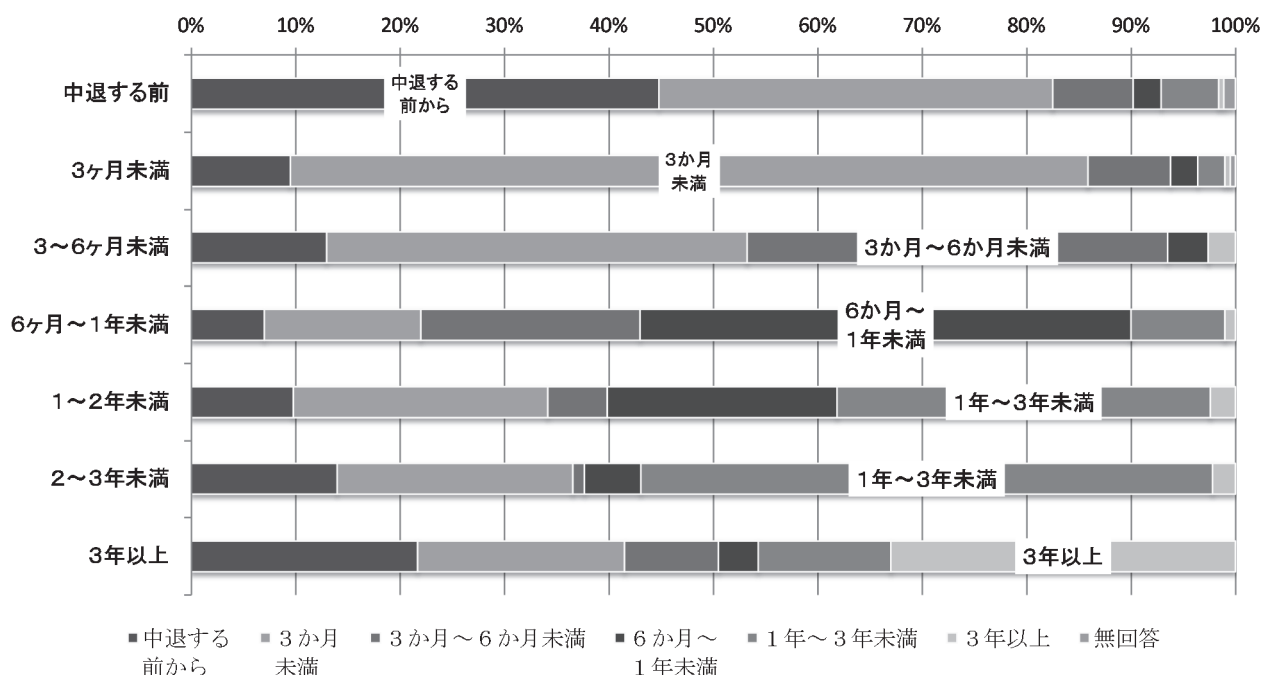
図表3-5 学校種別と「ハローワークを利用しよう」と思った時期

	中退する 前	3ヶ月 未満	3~6ヶ 月未満	6ヶ月~ 1年未満	1~2年 未満	2~3年 未満	3年以上	無回答	合計	N
専門学校	18.5	34.2	7.5	11.0	7.5	4.1	6.2	11.0	100.0	146
短大・高専	13.4	16.5	6.2	10.3	9.3	9.3	22.7	12.4	100.0	97
大学	15.8	14.4	6.6	8.7	12.4	9.5	21.9	10.7	100.0	758
大学院	32.7	14.3	8.2	4.1	14.3	8.2	14.3	4.1	100.0	49
その他・無回答	15.6	17.8	13.3	13.3	4.4	4.4	17.8	13.3	100.0	45
全体	16.7	17.4	7.0	9.1	11.2	8.5	19.4	10.7	100.0	1095

ハローワークを利用しようと思った時期と、就職活動を始める時期にはそれほどずれはなく（図表3-6）、すでにハローワークを利用している層においては、ハローワークは就職活動を始めるにあたって最初の段階で利用できる手段として認識されていると推察される。

図表3-6 「ハローワークを利用しよう」と思った時期と就職活動を始めた時期

	就職活動を始めた時期						無回答	合計	N
	中退する 前から	3か月 未満	3か月~6 か月未満	6か月~ 1年未満	1年~3年 未満	3年以上			
中退する前	44.8	37.7	7.7	2.7	5.5	0.5	1.1	100.0	183
利用3ヶ月未満	9.5	76.3	7.9	2.6	2.6	0.5	0.5	100.0	190
利用3~6ヶ月未満	13.0	40.3	40.3	3.9	0.0	2.6	0.0	100.0	77
利用6ヶ月~1年未満	7.0	15.0	21.0	47.0	9.0	1.0	0.0	100.0	100
利用1~2年未満	9.8	24.4	5.7	22.0	35.8	2.4	0.0	100.0	123
利用2~3年未満	14.0	22.6	1.1	5.4	54.8	2.2	0.0	100.0	93
利用3年以上	21.7	19.8	9.0	3.8	12.7	33.0	0.0	100.0	212
無回答	10.3	34.2	8.5	8.5	20.5	13.7	4.3	100.0	117
全体	18.3	35.9	10.8	10.0	15.5	8.8	0.7	100.0	1095



続いてハローワーク利用のきっかけを自由記述から整理する（図表3-7）。最も多いのが「親」48.6%であり、続いて「友人」18.1%、「その他」が10.3%となっている。

ハローワークを利用しようと思ったきっかけを学校種別ごとに見ると、もっとも多いのは「親」という回答だが、学校種別ごとに特徴が見られる。大学・大学院は「ホームページ」という回答が多く、大学院はサンプルサイズが小さいが「学校」「サポステや支援機関」という回答が多く、「親」という割合が低くなる。他方で専門学校では「親」が、短大・高専は「友人」で高くなっているが、より若い年齢と性別構成（短大・高専は女性が多い）が反映されていると推察される。

図表3-7 学校種別とハローワークを利用しようと思ったきっかけ

	ホーム ページ	親	友人	学校	サポステ や支援 機関等	親族・ 知人・ 恋人	失業給 付受給・ 職業訓 練	その他	記入 なし	無回答	合計	N
専門学校	6.8	62.3	15.1	3.4	0.7	2.1	0.0	6.2	2.1	1.4	100.0	146
短大・高専	0.0	49.5	21.6	2.1	1.0	2.1	6.2	12.4	3.1	2.1	100.0	97
大学	10.2	46.7	18.6	2.1	2.2	2.0	1.7	11.2	2.2	3.0	100.0	758
大学院	24.5	32.7	16.3	8.2	6.1	2.0	2.0	4.1	0.0	4.1	100.0	49
その他・無回答	8.9	51.1	13.3	4.4	6.7	2.2	0.0	11.1	0.0	2.2	100.0	45
全体	9.4	48.6	18.1	2.6	2.3	2.0	1.8	10.3	2.1	2.7	100.0	1095

次に、ハローワークを利用しようと思った時期別に検討した（図表3-8）。中退する前に検討した場合には、学校が他のカテゴリーと比較してやや高いが、7.7%にとどまっている。また中退してからの年月が長いほど親の割合は低下傾向にあり、友人やその他、「失業給付受給・職業訓練」がきっかけとなる場合が増加する。

図表3-8 ハローワークを利用しようと思った時期ときっかけ

	ホームページ	親	友人	学校	サポステ や支援 機関等	親族・ 知人・ 恋人	失業給 付受給・ 職業訓 練	その他	記入 なし	無回答	合計	N
中退する前	7.1	54.6	18.6	7.7	1.1	2.7	0.0	6.0	1.1	1.1	100.0	183
3ヶ月未満	8.9	65.8	14.2	3.2	0.5	0.5	0.0	4.7	1.1	1.1	100.0	190
3～6ヶ月未満	7.8	50.6	19.5	2.6	3.9	1.3	0.0	11.7	2.6	0.0	100.0	77
6ヶ月～1年未満	9.0	64.0	12.0	1.0	2.0	1.0	0.0	10.0	1.0	0.0	100.0	100
1～2年未満	9.8	50.4	17.1	2.4	2.4	4.1	1.6	10.6	0.0	1.6	100.0	123
2～3年未満	10.8	44.1	23.7	0.0	3.2	1.1	2.2	11.8	2.2	1.1	100.0	93
3年以上	11.3	26.4	23.6	0.0	4.7	2.4	7.1	18.9	2.8	2.8	100.0	212
無回答	10.3	38.5	14.5	2.6	0.9	2.6	0.9	8.5	6.8	14.5	100.0	117
全体	9.4	48.6	18.1	2.6	2.3	2.0	1.8	10.3	2.1	2.7	100.0	1095

図表3-7の行と列を入れ替え、ハローワークを利用したきっかけと、利用しようと思った時期の関連をクロスした(図表3-9)。サンプルサイズはかなり小さいが、利用したきっかけが学校の場合には中退する前から利用しようとする割合が高くなっている。中退する前にハローワークを利用しようと思うに至るには、学校が鍵になることが推察される。

図表3-9 ハローワークを利用したきっかけと利用しようと思った時期

	中退する 前	3ヶ月 未満	3～6ヶ 月未満	6ヶ月～ 1年未満	1～2年 未満	2～3年 未満	3年以上	無回答	合計	N
ホームページ	12.6	16.5	5.8	8.7	11.7	9.7	23.3	11.7	100.0	103
親	18.8	23.5	7.3	12.0	11.7	7.7	10.5	8.5	100.0	532
友人	17.2	13.6	7.6	6.1	10.6	11.1	25.3	8.6	100.0	198
学校	48.3	20.7	6.9	3.4	10.3	0.0	0.0	10.3	100.0	29
サポステや支援機関等	8.0	4.0	12.0	8.0	12.0	12.0	40.0	4.0	100.0	25
親族・知人・恋人	22.7	4.5	4.5	4.5	22.7	4.5	22.7	13.6	100.0	22
失業給付受給・職業訓練	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	75.0	5.0	100.0	20
その他	9.7	8.0	8.0	8.8	11.5	9.7	35.4	8.8	100.0	113
記入なし	8.7	8.7	8.7	4.3	0.0	8.7	26.1	34.8	100.0	23
無回答	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7	3.3	20.0	56.7	100.0	30

次にハローワーク以外の求職方法を検討する(図表3-10)。

ハローワーク以外の求職方法として最も多いのが「求人情報サイトを見る」、「求人広告・雑誌を見る」が飛びぬけて高く、「家族や友人・知人に紹介を頼む」、「派遣会社への登録」、「民間の職業紹介会社への登録」が続いている。

学校種別ごとには、男性の専門学校中退者と大学中退者は「求人情報サイト」を特に活用する傾向が見られ、学校種別を問わず男性よりも女性の方が派遣会社への登録割合が高い。

図表 3-10 ハローワーク以外の求職方法

		求人広告・雑誌を見る	求人情報サイトを見る	家族や友人・知人に紹介を頼む	民間の職業紹介会社に登録する	派遣会社に登録する	その他	N
男性	専門学校	67.2	75.0	21.9	3.1	10.9	1.6	64
	短大・高専	80.0	65.0	25.0	10.0	10.0	5.0	20
	大学	62.0	76.3	18.8	7.6	9.0	3.1	489
	大学院	51.4	82.9	5.7	25.7	8.6	5.7	35
	その他・無回答	60.7	67.9	25.0	0.0	7.1	3.6	28
女性	専門学校	75.6	69.2	7.7	3.8	14.1	2.6	78
	短大・高専	69.3	76.0	16.0	4.0	17.3	0.0	75
	大学	71.0	80.4	12.9	6.7	18.8	1.3	224
	大学院	41.7	100.0	8.3	0.0	16.7	0.0	12
	その他・無回答	68.8	81.2	6.2	6.2	31.2	0.0	16

図表 3-11 によれば、ハローワークを利用しようと思った時期との関連については直線的な変化は見られない。

図表 3-11 ハローワークを利用しようと思った時期とハローワーク以外の求職方法

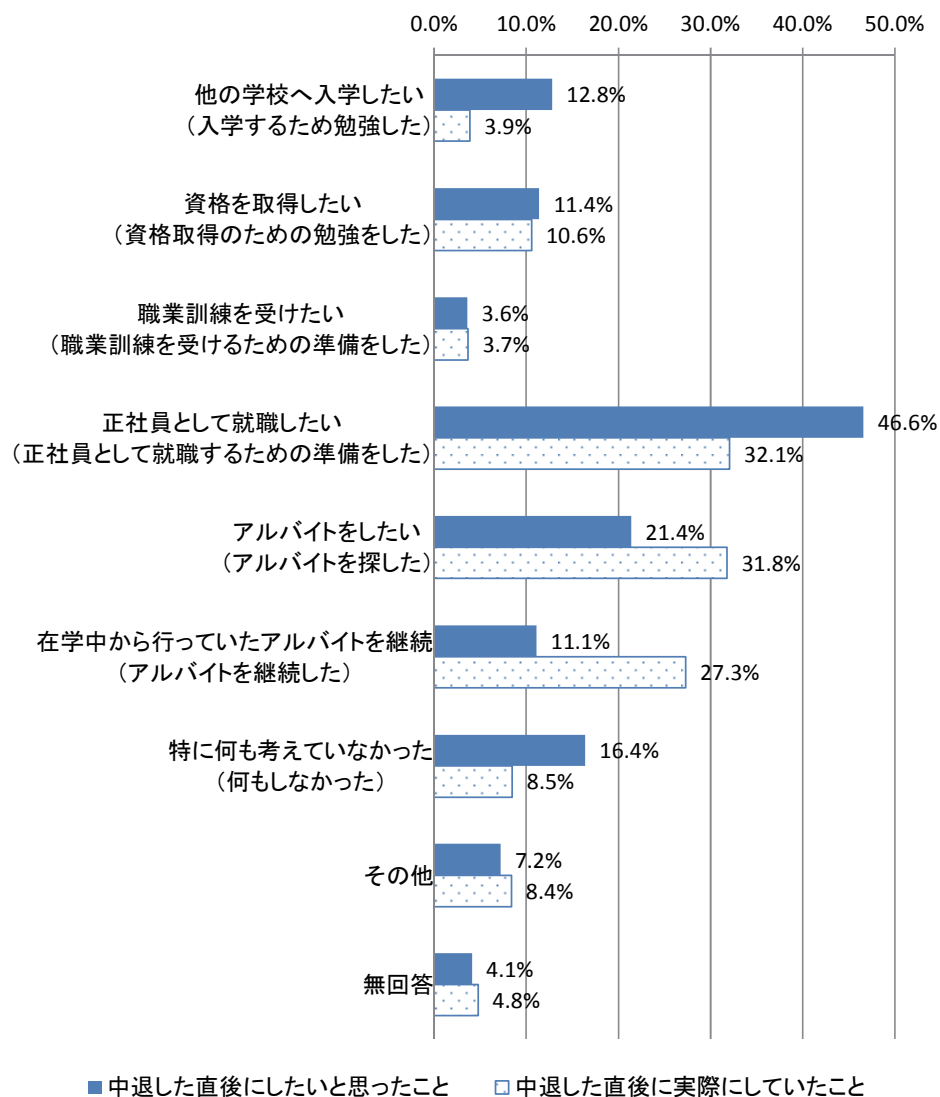
	求人広告・雑誌を見る	求人情報サイトを見る	家族や友人・知人に紹介を頼む	民間の職業紹介会社に登録する	派遣会社に登録する	その他	無回答	N
中退する前	60.7	72.1	18.0	6.0	9.8	2.2	4.4	183
3ヶ月未満	67.9	70.0	16.3	6.8	7.4	1.6	3.7	190
3～6ヶ月未満	63.6	68.8	7.8	7.8	13.0	5.2	3.9	77
6ヶ月～1年未満	60.0	72.0	14.0	1.0	9.0	5.0	5.0	100
1～2年未満	64.2	82.1	10.6	4.9	17.1	0.8	5.7	123
2～3年未満	55.9	72.0	12.9	11.8	12.9	2.2	6.5	93
3年以上	63.7	78.8	19.3	7.1	16.0	1.9	3.3	212
無回答	61.5	65.0	17.1	7.7	12.0	1.7	6.0	117

第2節 中退直後の希望と実際

本項では中退直後に希望していたことと実際について比較するが、データが回顧データであるため、当事者の記憶の中で変容している可能性に留意しながら検討したい。まず中退直後にしたいと思ったことと、実際に何をしていたかについて比較したのが図表 3-12 である。

中退した直後は、「正社員として就職したい」、「アルバイトをしたい」、「他の学校に入学したい」、「特に何も考えていなかった」が上位を占めている。実際には、「正社員として就職するための活動をした」、「アルバイトを探した」、が高かったが、他方で中退した直後にはあまり想定されていなかった、「在学中から行っていたアルバイトを継続した」という割合が高くなっている。またギャップが見られる項目としては、再入学希望が 12.8%に対して、「他の学校へ入学するための勉強をした」という割合が 3.9%と低くなっており、ハローワーク利用者という特性はあるものの、教育に残るよりも実際には労働市場へ参入していく割合が高くなるようである。

図表3-12 中退した直後にしたいと思ったことと実際にしていたこと（複数回答）



学校種別ではそれほど大きな違いはないものの（図表3-13）、専門学校中退者では「在学中から行っていたアルバイトを継続」という割合が希望よりもかなり高くなっており、短大・高専中退者では「正社員として就職したい」と希望していたが実際に正社員のための活動をするという割合が低くなっている。大学中退者では、資格取得希望で実際にそのための勉強をしている割合が高い。

図表 3-13 中退した直後にしたいと思ったことと実際にしていたこと（学校種別）

	専門学校		短大・高専		大学		大学院	
	希望	実際	希望	実際	希望	実際	希望	実際
他の学校へ入学したい	13.7	3.4	15.5	5.2	13.5	4.2	2.0	0.0
資格を取得したい	13.0	8.2	15.5	8.2	10.9	11.1	14.3	22.4
職業訓練を受けたい	6.2	2.7	2.1	1.0	3.6	4.4	0.0	4.1
正社員として就職したい	53.4	40.4	41.2	20.6	47.1	32.6	67.3	51.0
アルバイトをしたい	29.5	35.6	23.7	36.1	20.7	32.7	18.4	18.4
在学中から行っていたアルバイトを継続	8.9	24.7	16.5	34.0	12.0	29.7	4.1	8.2
特に何も考えていなかった	12.3	4.8	17.5	6.2	18.3	9.6	8.2	14.3
その他	5.5	6.2	7.2	8.2	7.4	9.1	16.3	12.2
無回答	0.7	2.7	0.0	2.1	0.7	1.1	0.0	0.0
	146	146	97	97	758	758	49	49

図表 3-12 で実際に「在学中から行っていたアルバイトを継続した」という割合が高いことから、在学中から行っていたアルバイトを継続した者のみ取り出し、中退した直後の希望との関連を検討した（図表 3-14：これらは複数回答であり、同時に他の活動も行っている可能性がある）。中退直後からアルバイトを継続しようと思っていた場合において高いのは当然であるが、正社員として就職したいと考えていたり、再入学や職業訓練・資格取得などを希望していても、当面は在学中からのアルバイトを続けるという行動に至りやすいことが推察される。

この理由としては、「中退後の就職活動で困難・不利益を感じたこと」の自由記述からは、アルバイトといってもフルタイムに近いためますます正社員へのチャンスが遠のくことが語られている。

【正社員として雇用してくれる所を探す事が大変でしたので、派遣やアルバイトでつないでいました。フルタイムで働いていたので、その中での就活は時間的に難しかったです。】（女性／36 歳／大学）

【生活費を稼ぐ必要性から、希望する仕事への就職活動や必要な勉強をする時間を確保し辛い。】（男性／27 歳／大学）

また中退者の場合、何から手をつけてよいのかわからないという点も大きいようである。

【新卒の就職活動の仕方は、調べなくても自然と耳に入ってくるが、中退したら何をすればいいのか何も分からなかった。】（男性／20 歳／大学）

図表 3-14 中退した直後の希望と在学中から行っていたアルバイトを継続した割合
(複数回答)

	在学中から行っていた アルバイトを継続した	N
他の学校へ入学したい	24.3	140
資格を取得したい	17.6	125
職業訓練を受けたい	20.5	39
正社員として就職したい	29.6	510
アルバイトをしたい	26.1	234
在学中から行っていたアルバイトを継続したい	92.6	122
特に何も考えていなかった	22.2	180
その他	26.6	79

ただし在学中から行っていたアルバイトを継続することが一概にキャリアにマイナスに働くわけではない。図表 3-15 は、在学中から行っていたアルバイトを継続した者の就業経験（詳しくは次節で説明）を整理しているが、他のカテゴリーよりも働いた経験がないという割合が低くなっている。なお年齢をコントロールしても同様の傾向が見られた。正社員のみを経験という割合はごく少ないので、中退直後に無職ではないという状態は必ずしもマイナスの経験ともいえないことが推測される。

図表 3-15 在学中から行っていたアルバイトを継続した者の就業経験

	働いた経験 なし	非典型一貫	正社員＋ 非正社員	正社員のみ 経験(無職 経験含む)	合計	N
在学中からアルバイトを継続した	0.0	72.9	27.1	0.0	0.0	295
それ以外	18.0	54.0	21.5	6.5	0.0	739
無回答	18.0	58.0	20.0	4.0	0.0	50
全体	13.1	59.3	23.0	4.6	0.0	1084

図表 3-16 によれば、中退した直後に知りたかったことと、中退したときに受けたかった支援についてはほとんど違いが見られなかったが、回顧データの特徴が出ている可能性がある。

図表 3-16 中退した直後に知りたかったことと、中退したときに受けたかった支援

	他の学校 への入学 に向けた 情報	資格取得 のための 情報	職業訓練 の情報	仕事探し の相談を するための 支援機関 等の情報	心の悩み を相談する ための支 援機関等 の情報	その他	特に知りた い情報は なかった
中退したときに知りたかった情報	7.6	13.6	15.1	31.4	15.3	1.1	15.9
中退したときに受けたかった支援	7.2	13.9	14.8	32.8	15.2	0.5	15.7

第3節 就職活動の状況

中退してからこれまでしてきた活動内容について個人ごとに分析してみると(図表3-17)、今回対象となっているハローワークに来た者においては、正社員のための求職活動が基本であり、資格取得や他の学校へ入学するための準備だけをしてきた割合は低くなっている。

図表3-17 中退してからこれまでしてきた活動内容

活動内容	割合	N
正社員のための求職活動	23.5	235
正社員のための求職活動+正社員以外の求職活動	21.2	212
正社員のための求職活動+正社員以外の求職活動+資格取得+他の学校	13.4	134
正社員のための求職活動+正社員以外の求職活動+資格取得	12.1	121
正社員以外の求職活動	10.5	105
正社員のための求職活動+資格取得	5.1	51
正社員以外の求職活動+資格取得	4.5	45
資格取得	2.9	29
正社員以外の求職活動+他の学校	1.5	15
正社員のための求職活動+正社員以外の求職活動+他の学校	1.2	12
正社員以外の求職活動+資格取得+他の学校	1.1	11
正社員のための求職活動+資格取得+他の学校	1.0	10
正社員のための求職活動+他の学校	0.9	9
他の学校	0.8	8
資格取得+他の学校	0.3	3
合計	100.0	1000

注：無回答除く

なお、正社員として就職するための求職活動をした者のうち、正社員になった割合は40.1%となっている。学校種別ごとには、大学院中退者が42.1%と最も高く、専門学校中退者が36.2%と最も低かった。また正社員以外として働くための求職活動については、70.7%が仕事を得ているが、専門学校中退者が54.8%と最も低く、短大・高専中退者が76.1%と最も高かった。他の学校へ入学した割合は24.3%と低く、大学中退者で27.7%が最も高い。資格取得については、資格を取得したのは48.8%であり、短大・高専中退者で58.5%と最も高く、大学院中退者で38.9%にとどまった(巻末の基礎集計表参照)。

次に、これまで経験した就業経験について図表3-18に整理する。ここでは「働いた経験なし」、「非典型一貫」、「正社員と非正社員」の3つの類型に分類した。「非典型一貫」が58.7%と最も高く、「正社員と非正社員」の経験がある割合が23.7%、「働いた経験なし」が13.1%であった。

図表3-18 これまで経験した就業経験

	N	%
働いた経験なし	142	13.1
1ヶ月以上無職経験	1	0.1
1ヶ月以上無職経験＋働いた経験なし	4	0.4
働いた経験なし	137	12.6
非典型一貫	637	58.7
1ヶ月以上無職経験＋非正社員	223	20.6
1ヶ月以上無職経験＋非正社員	71	6.5
1ヶ月以上無職経験＋非正社員	26	2.4
1ヶ月以上無職経験＋非正社員＋自営その他	16	1.5
1ヶ月以上無職経験＋非正社員＋自営その他	10	0.9
1ヶ月以上無職経験＋非正社員＋自営その他	1	0.1
非正社員＋自営その他	7	0.6
非正社員＋自営その他	1	0.1
非正社員＋自営その他	1	0.1
非正社員のみ	240	22.1
非正社員のみ	35	3.2
非正社員のみ	6	0.6
正社員と非正社員	255	23.7
1ヶ月以上無職経験＋正社員＋自営その他	4	0.4
1ヶ月以上無職経験＋正社員＋非正社員＋自営その他	5	0.5
1ヶ月以上無職経験＋正社員＋非正社員＋自営その他	1	0.1
1ヶ月以上無職経験＋正社員＋非正社員＋自営その他	2	0.2
1ヶ月以上無職経験＋正社員＋非正社員＋自営その他	1	0.1
1ヶ月以上無職経験＋非正社員＋正社員	94	8.7
1ヶ月以上無職経験＋非正社員＋正社員	47	4.3
1ヶ月以上無職経験＋非正社員＋正社員	18	1.7
自営その他のみ	6	0.6
正社員＋非正社員	61	5.6
正社員＋非正社員	11	1.0
正社員＋非正社員	3	0.3
正社員＋非正社員＋自営その他	2	0.2
正社員のみ	50	4.6
正社員のみ	23	2.1
1ヶ月以上無職経験＋正社員	27	2.5
	1084	100.0

注：11 ケースは情報が得られなかったもので、類型からは除いている。

学校種別でみると（図表3-19）、男女とも働いた経験がない割合が高いのは専門学校中退者である。どのカテゴリーでも非典型一貫が最も多くを占めている。

図表 3-19 学校種別と就業経験

		働いた経 験なし	非典型一 貫	正社員＋ 非正社員	正社員の み経験 (無職経 験含む)	合計	N
男性	専門学校	23.4	46.9	20.3	9.4	100.0	64
	短大・高専	5.0	65.0	20.0	10.0	100.0	20
	大学	11.4	59.7	24.7	4.2	100.0	518
	大学院	47.2	38.9	13.9	0.0	100.0	36
	その他・無回答	17.9	60.7	17.9	3.6	100.0	28
	全体	14.6	57.5	23.3	4.7	100.0	666
女性	専門学校	14.1	64.1	17.9	3.8	100.0	78
	短大・高専	13.3	62.7	21.3	2.7	100.0	75
	大学	8.6	62.9	23.7	4.7	100.0	232
	大学院	8.3	50.0	16.7	25.0	100.0	12
	その他・無回答	12.5	50.0	37.5	0.0	100.0	16
	全体	10.7	62.2	22.5	4.6	100.0	413

次に最も重要な中退理由と就業経験の関連を検討した(図表3-20)。最も重要な中退理由が「進路変更」であるケースにおいては、「働いた経験なし」や「非典型一貫」の割合が低いが、他の類型では高くなっており、特に「病気・ケガ・休養」を理由とする場合に「非典型一貫」割合が高くなっている。

図表 3-20 最も重要な中退理由と就業経験

	働いた経 験なし	非典型一 貫	正社員＋ 非正社員	正社員の み経験 (無職経 験含む)	合計	N
学業不振・無関心	15.9	61.6	18.1	4.4	100.0	409
人間関係・大学生活不適應	12.4	59.3	25.7	2.7	100.0	113
進路変更	7.6	49.3	36.8	6.3	100.0	144
病気・ケガ・休養	11.4	66.7	16.7	5.3	100.0	114
家庭・経済的理由(妊娠出産含)	12.9	56.7	25.7	4.7	100.0	171
特に何もない・その他	11.8	35.3	41.2	11.8	100.0	17
全体	13.1	58.8	23.3	4.8	100.0	968

就業経験には年齢と性別が影響を与えていることが考えられるので、以下では主として年齢別・性別ごとに示すこととする。

図表3-21によれば、ハローワーク利用者ということもあり、男女とも10代は働いた経験がない割合が高く、年齢の上昇に伴って働いた経験がない割合が減少する。20代前半は非典型一貫が男女とも7割、20代後半でも半数近くを占め、正社員経験は30代前半で高くなる。パネルデータではないため年齢による変化と見なすことは難しいとしても、一般的に正社員への移行が進む20代ではなく30代において正社員経験が高くなるという点で、大学等中退者は年齢の上昇に伴う正社員への移行が全体としてゆるやかであることがうかがえる。

図表 3-21 これまで経験した就業形態（現在の年齢別）

		働いた経験 なし	非典型一貫	正社員＋ 非正社員	正社員のみ 経験(無職 経験含む)	合計	N
男性	10代	51.3	43.6	2.6	2.6	100.0	39
	20代前半	15.8	70.3	11.1	2.9	100.0	279
	20代後半	13.0	54.1	25.6	7.2	100.0	207
	30代前半	2.5	50.6	41.8	5.1	100.0	79
	30代後半	0.0	23.9	69.6	6.5	100.0	46
	無回答	25.0	43.8	31.2	0.0	100.0	16
	合計	14.6	57.5	23.3	4.7	100.0	666
女性	10代	41.0	56.4	2.6	0.0	100.0	39
	20代前半	12.7	70.1	14.7	2.5	100.0	197
	20代後半	2.9	59.2	31.1	6.8	100.0	103
	30代前半	0.0	46.9	40.8	12.2	100.0	49
	30代後半	0.0	41.2	52.9	5.9	100.0	17
	無回答	0.0	75.0	25.0	0.0	100.0	8
	合計	10.7	62.2	22.5	4.6	100.0	413

次に応募先を決める際に重視する条件としては（図表 3-22）、全体としては企業の業種・仕事内容や正社員かどうか、勤務時間・休暇・福利厚生という回答が多くなっている。ただし年齢ごとに差異が見られ、10代は企業の将来性・安定性を特に重視する傾向があり、また10代と20代前半は学歴不問や経験不問を重視する傾向がある。こうした傾向は10代ないしは20代前半は同世代の新卒者を意識せざるを得ないのに対して、20代後半になると学歴による差異を意識することが少なくなることがあるのだろうと推察される。

図表 3-22 年代と応募先を決める際に重視する条件

	企 業 内 の 業 種 ・ 業 容	企 業 の 知 名 度	・企 業 の 安 定 性 将 来 性	か 正 社 員 か ど う	暇 勤 ・ 務 福 時 間 厚 ・ 生 休	給 料	有 無 地 域 ・ 条 件 の 勤	い 適 分 の 合 能 力 や	る 学 歴 と 不 問 で あ	る 経 験 と 不 問 で あ	そ の 他	な い の も か う ま な わ 条	無 回 答	N
10代	78.3	2.4	34.9	66.3	63.9	51.8	45.8	50.6	43.4	37.3	0.0	1.2	1.2	83
20代前半	75.6	5.2	23.5	66.5	67.5	55.8	50.6	46.0	43.3	44.4	0.8	0.4	0.2	480
20代後半	75.8	3.5	23.9	65.8	66.1	53.5	49.0	56.1	36.1	42.3	0.6	0.0	0.0	310
30代前半	79.8	4.7	21.7	55.0	63.6	59.7	47.3	56.6	34.9	38.8	2.3	0.8	0.0	129
30代後半	77.8	4.8	25.4	57.1	52.4	68.3	50.8	63.5	41.3	44.4	1.6	0.0	0.0	63
無回答	66.7	3.3	23.3	60.0	60.0	56.7	46.7	33.3	43.3	36.7	0.0	0.0	3.3	30

また、就業経験との関連を見ると（図表 3-23）、働いた経験がないと給料や勤務時間等の労働条件への意識が薄い。

図表 3-23 就業経験と応募先を決める際に重視する条件

	事業 内容の 業種・ 業種	企業 の知 名度	・企業 安定の 将来性	か正 社員 かど う	暇勤 ・務 福時 利間 厚・ 生休	給料	有務 無地 域条 件 （転 勤の 動	い適 る性 こと の合 つ力 てや	る自 こ分 と不 問 問 で あ	る経 こ験 と不 問 問 で あ	そ の 他	ない で の よ か う な ま 条 件	ど の よ か う な ま 条 件	無 回 答	N
働いた経験なし	81.7	0.0	26.8	61.3	58.5	42.3	45.8	54.9	33.8	48.6	0.7	0.7	0.0	142	
非典型一貫	74.7	5.4	23.6	62.2	64.1	54.6	48.1	50.7	41.8	43.7	0.5	0.5	0.2	643	
正社員+非正社員	79.1	4.8	26.1	67.5	72.7	66.3	56.6	53.4	40.6	36.9	2.4	0.0	0.0	249	
正社員のみ経験(無職経験含む)	70.0	2.0	18.0	78.0	68.0	66.0	44.0	42.0	40.0	38.0	0.0	0.0	0.0	50	

続いて採用面接を受けた企業数を就業経験別にみると（図表 3-24）、働いた経験がない者でも採用面接を受けた経験がある割合が半数以上を占めている。ただし設問には正社員としての採用に限るとの条件を付していなかったため、正社員としての採用面接に限られているかどうかについては留保が必要である。

図表 3-24 就業経験と採用面接を受けた企業数

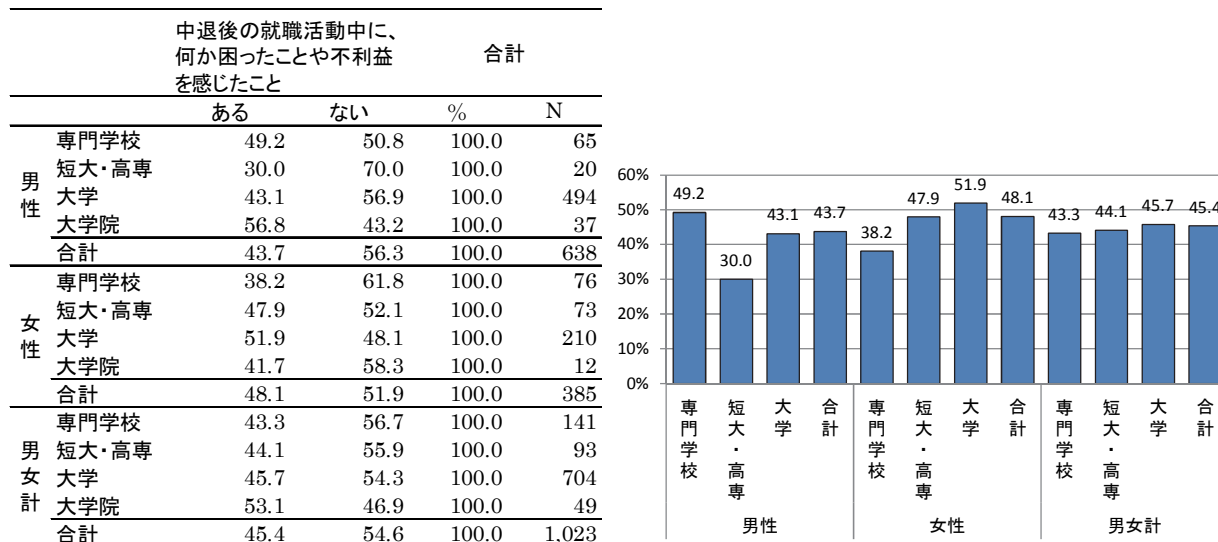
	なし	1~5社	6~10社	11~30社	30社 以上	無回答	合計	N
働いた経験なし	43.7	38.7	4.9	6.3	0.7	5.6	100.0	142
非典型一貫	31.6	45.6	11.4	4.5	1.7	5.3	100.0	643
正社員+非正社員	8.0	55.0	20.1	8.8	3.2	4.8	100.0	249
正社員のみ経験(無職経験含む)	10.0	60.0	12.0	8.0	2.0	8.0	100.0	50

第 4 節 中退後の就職活動での困難さや不利益の経験

つづいて、中退後の就職活動でなにか困難や不利益を感じたか（「問 8 中退後の就職活動中に、何か困ったことや不利益を感じたことはありましたか。ある方は具体的にご記入ください。」）に対する回答を検討する。

まず、どのくらいの中退者が就職活動での困難さや不利益を経験しているのかを確認しておこう。上記の問 8 への回答を見てみると（図表 3-25）、そうした経験をした者は全体の 45.4%であり、学校種間での差異はそれほど見られない。ただし、男性では専門学校中退者で、女性では大学中退者でそうした経験をした傾向が若干高いことが見て取れる。

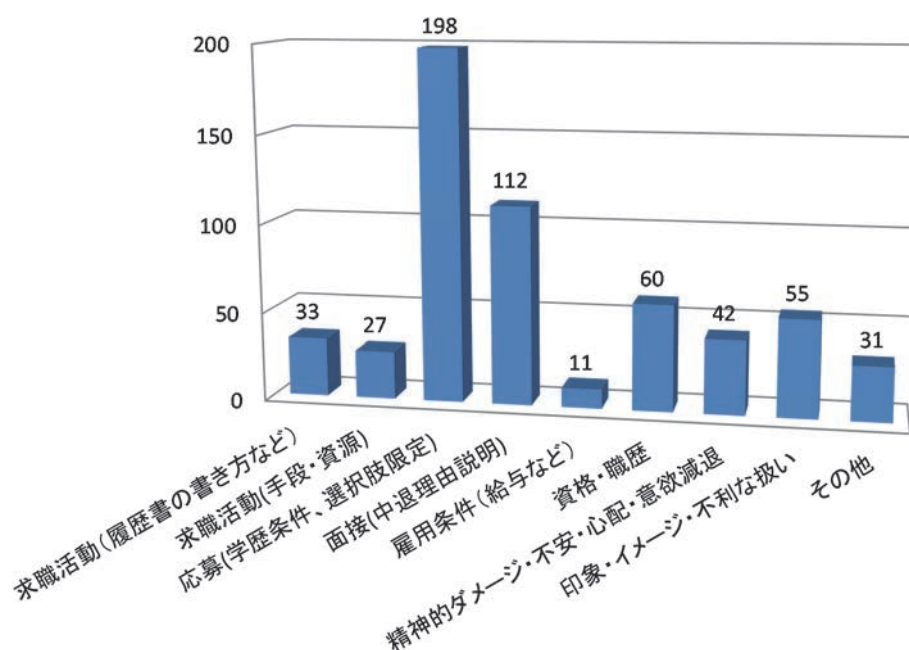
図表 3-25 中退後の就職活動で困難・不利益を感じた経験の有無



では、つぎに中退者が経験する就職活動中の困難や不利益がどのようなものであるかについて、自由回答の内容を見ていこう。上記の経験のある有効回答数は、468名である。それらの記述をコーディングした結果、回答内容は以下のように分類された。なお、1つの記述に複数のテーマが出現する場合は、それぞれのコードについてカウントしている。

コメント数を見ると、応募（学歴条件、選択肢限定）（198件）に関する記述が最も多く、面接（中退理由説明）（112件）、資格・職歴（60件）、印象・イメージ・不利な扱い（55件）がそれに続いている（図表3-26）。具体的な記述内容は、その一部を以下に示している（詳細は付属資料の自由回答分類を参照）。

図表 3-26 中退後の就職活動での困難・不利益（N=468）



「求職活動（履歴書の書き方など）」（33件）

【根本的にまず何をしたらよいか分からない。何が必要で、どんな職業があるのか、ハローワークに「就職したい」と突然行って大丈夫なのか、無からのスタートなので申し訳ないと思ったが、まず相談・話しが出来るところが欲しいと思った。】（男性／26歳／大学）

「求職活動（手段・資源）」（27件）

【なかなか正社員で働きたいと思えなかった事。アルバイトだけだと、なかなか就活する時間もお金もない事で、アルバイト生活から抜け出せない事。それにともない、正社員で働く事が少しずつ遠のいていくと感じた。なかなか、中退した理由を説明しづらく、理解されにくかった。】（男性／31歳／大学）

「応募（学歴条件、選択肢限定）」（198件）

【経験や能力があっても大卒ではない為、応募出来ない事があった。経緯を説明しても、中退を理由に不採用とされた。資格取得時に条件が不利で選択の幅が狭まる。書類審査を通過出来ない事が多い。】（男性／32歳／大学）

「面接（中退理由説明）」（112件）

【面接で、「なぜ大学を辞めたのか」から話が始まる。（中退後すぐの頃。社会経験がないからか）中退＝仕事もろくに続けられないのではという先方の思いが見てとれるような企業もあり、大学中退より高卒の方が就職に有利なのだと思います。中退の理由は経済的理由など人それぞれなのに、人の痛い所について、話を掘り下げる面接官もいるのが現状。】（女性／28歳／大学）

「雇用条件（給与など）」（11件）

【やはり学歴が無いので選べる仕事や給料が低い。】（男性／22歳／大学）

「資格・職歴」（60件）

【大金を支払って専門学校に行ったので、国家資格を取得して卒業すれば良かったと思う時がある。学校の選び方をもっとしっかり検討して決めれば良かったと思う。そうすれば、お金の無駄にもならなかったし、もっと自分自身の夢に対して遠回りしなかったと後悔している。】（女性／20歳／専門学校）

「精神的ダメージ・不安・心配・意欲減退」（42件）

【自宅ですごしていた時間が長く、生活サイクルも乱れていたため、規則正しい仕事につくことへの不安が大きいのが困った。学歴不問のアルバイトばかり目につくようになる。（正社員（フルタイムの仕事）を最初からあきらめる）】（女性／26歳／大学）

「印象・イメージ・不利な扱い」(55件)

【「大学を中退した」という世間でのイメージの悪さが想像以上に大きい。途中で投げ出したというイメージがあるようです。高校卒業後就職した方々より、学費をはじめ勉学等、より多く力を費したが、就職活動では高卒より下に見られる実感があります。】(男性/22歳/大学)

「その他」(31件)

【自分に合った仕事が見つけれられるか。働ける場所があるのか。】(男性/18歳/専門学校)

第5節 支援の利用状況

続いて支援の利用状況を整理するが、図表3-27には比較のため「ワークスタイル調査」の高等教育中退者の数値を示した。ところで「ハローワーク調査」はハローワークの利用者を対象としているが、「ワークスタイル調査」における高等教育中退者のうち2割程度がハローワークの利用経験があった。第1章の結果からすると都市部という特性を反映してか利用率は低い。図表3-28によれば、「ハローワーク調査」はすでに支援につながっている若者層が対象であることから、様々な公的支援の利用割合は全体として高い傾向が見られる。

図表3-27 公的支援の利用状況

		奨学金	減授業料免除・	失業手当	ヨロコブサポ	地域若者サポート	ジョブカフェ	体のまの職業訓練	生活保護	その他	たどこれとは活ないし	ハローワーク	N
男性	専門学校	35.4	1.5	13.8	6.2	4.6	4.6	1.5	0.0	46.2		65	
	短大・高専	21.1	0.0	36.8	21.1	15.8	26.3	0.0	0.0	26.3		19	
	大学	38.3	4.9	19.7	8.4	8.0	8.4	0.8	0.6	35.0		512	
	大学院	50.0	11.1	13.9	11.1	13.9	11.1	2.8	0.0	25.0		36	
	その他・無回答	50.0	3.6	14.3	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	32.1		28	
ワークスタイル調査	高等教育中退	37.8	1.4	8.1	2.7	1.4	1.4	0.0	0.0	41.9	23.0	74	
女性	専門学校	45.9	5.4	10.8	4.1	14.9	5.4	8.1	1.4	39.2		74	
	短大・高専	32.0	5.3	25.3	1.3	2.7	8.0	0.0	0.0	40.0		75	
	大学	40.2	5.2	26.6	1.7	7.4	14.4	1.7	1.7	31.9		229	
	大学院	41.7	8.3	16.7	0.0	16.7	8.3	0.0	8.3	25.0		12	
	その他・無回答	60.0	13.3	20.0	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0	33.3		15	
ワークスタイル調査	高等教育中退	22.7	6.8	6.8	0	0	2.3	0	2.3	70.5	20.5	44	

より詳しく奨学金の利用割合をみると(図表3-28)、「ワークスタイル調査」と直接の比較は難しいが、「ハローワーク調査」の対象者は奨学金の利用割合がやや高いことがうかがえる。

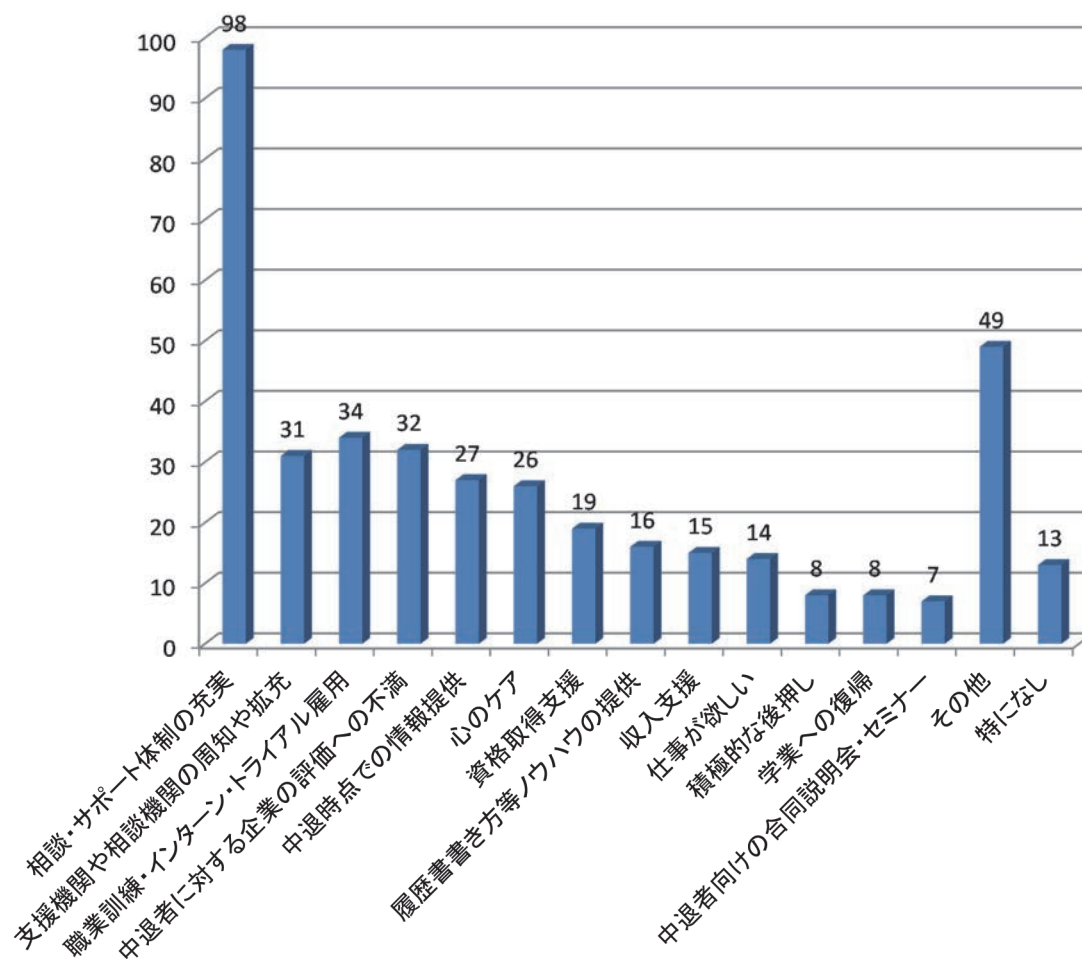
図表 3-28 奨学金の利用割合

		男性	女性
ワークスタイル調査	専門・短大・高専卒	16.7	23.7
	大学・大学院卒	27.6	31.7
	高等教育中退	37.8	22.7
ハローワーク調査	専門学校中退	35.4	43.0
	短大・高専中退	20.0	31.2
	大学中退	37.5	39.5
	大学院中退	48.6	41.7

自由記述から中退者からの就職支援への要望について探った（図表 3-29）。

「問 28 中退時や中退後の就職支援に対する要望について、自由にご記入下さい」という問いに対して、360 人の記述が寄せられた。その記述を複数回答としてコーディングしたところ、「相談・サポート体制の充実」98 件、「支援機関や相談機関の周知や拡充」31 件、「職業訓練・インターン・トライアル雇用」34 件、「中退者に対する企業の評価への不満」32 件、「中退時点での情報提供」27 件、「心のケア」26 件、「資格取得支援」19 件、「履歴書書き方等ノウハウの提供」16 件、「収入支援」15 件、「仕事が欲しい」14 件、「積極的な後押し」8 件、「学業への復帰」8 件、「中退者向けの合同説明会・セミナー」7 件、「その他」49 件、「特になし」が 13 件であった。代表的な記述を下記に挙げた（より詳しくは付属資料の自由回答分類を参照）。

図表 3-29 中退時や中退後の就職支援に対する要望について（自由記述を分類）



「相談・サポート体制の充実」

【中退する人の大半は自分が何をしたいのか、何が出来るのか、どうしたいのか、先が見えないのだと思います。不安であるけど心のどこかで「どうにかなる」だろうと考えている人もいるでしょう。なので先の事、今後の事をはっきりさせる事が大事だと思います。それが出来るマンツーマンでの相談を増やした方が良いのかもしれない。】（25歳・男性）

「支援機関や相談機関の周知や拡充」

【自分は専門学校を中退してから、就活の知識がゼロのまま、とりあえずまずはハローワークに行こうと思い立って行きました。ハローワークに行って初めて若年者サポートコーナーというものがあることを知りました。就活についてすごく悩みましたが、若年者サポートコーナーの担当者の方が自分の話をちゃんと聞いてアドバイスして頂けたのですごく助かりました。なので学校を中退された方で、これから初めて就活をする人に向けて、ハローワークには若者向けにどのような事業があるのか、行政としてはどのような事業があるとか、もっと分かりやすくしてくれるといいなと思います。】（23歳・女性）

「職業訓練・インターン・トライアル雇用」

【大学と連携をとることで、中退をした人々へ様々な就活方法をまとめた資料（職業訓練のパンフレット等）が送られると良いと思います。その後の道がわからずに何も出来ないでいる人が少しは減るのではないのでしょうか。】（28歳・男性）

「中退者に対する企業の評価への不満」

【応募資格に学歴をもとめる場合は、理由を明記してほしい。仕事によっては、なぜ大卒以上でなければならないのか理解出来ないし、企業も明確な理由でない場合もあると思う。】（24歳・男性）

「中退時点での情報提供」

【中退する人間は大抵就職活動に手を付けておらず、アルバイトか職なしが多いのでは？手続き等あっさり終わった記憶があるので、各大学が中退時の就職支援組織への紹介ぐらいいはあってもよかったと思う。】（30歳・男性）

「心のケア」

【中退者には繊細な人が多いと思うので、心のケアや社会復帰しやすい環境を作るべきだと思う。（ハローワークとサポートステーションを連携して支援）】（27歳・男性）

「資格取得支援」

【中退後、他の学校への進学を目指さない場合、資格等を取得し中退の穴埋めをしていくしかないかと思っている。】（25歳・男性）

「履歴書書き方等就職活動ノウハウの提供」

【中退後は履歴書の書き方・職務経歴書の作り方などを教えて頂けるとありがたいです。経歴は人それぞれなのでその人にあった書き方を一緒に見てもらえるとよいです。また、担当される方によっていい方・やり方・アドバイスも違うので、学校中退して初めてハローワークにくる方は担当制にされたらよいのではないかと思います。私は転職する時いろんな人とあたり、良い人もいれば悪い事しかいわない人もいて、どのアドバイスを信じればよいかわからない時がありました。今は同じ人に担当して頂き、相談しやすいですし、理解して頂けるので担当制にしてよかったので。】（28歳・女性）

「収入支援」

【学校を退学してしまったのは自分なのですが、お金がかかる事が割とあるので、バイトが忙しくあまり就職活動が満足にできていない。】（20歳・女性）

「仕事が欲しい」

【大学を中退した人でも積極的に採用して下さる企業が増えればいいなと思います。】(25歳・男性)

「積極的な後押し」

【積極的に案内をして欲しい。そもそも相談者は知らない事の方が多いと思うので(実際、私は中退当時、職業訓練という物がある事すら知らなかった)良いサポートがあるのであれば積極的に提示して頂けると助かる。】(31歳・女性)

「学業への復帰」

【私は薬学部の4年生分の単位はあります。7年目の在籍で中退となりましたが、大学に短大の設定がなく、大卒はもちろん短大卒の資格も得られず、高卒の学歴というのがなんとかならないのかなぁと思います。】(25歳・女性)

「中退者向けの合同説明会・セミナー」

【卒業する人にはいろいろなセミナーが用意されているのに、中退者には何にもないので、中退者向けの就職説明会や進学セミナーなどのサービスが欲しい。】(37歳・男性)

「その他」

【自営や独立に向けて相談しやすい機関が増えると良いと思います。】(22歳・男性)

「特になし」

【特にないです。窓口で相談に乗ってもらえるので大変助かっています。】(21歳・女性)

第6節 まとめ

本章では主として中退後の就職活動について分析した。明らかになったのは次の点である。

- ① ハローワークに来る中退者の場合、半数以上が就職活動に専念している。中退してからこれまで行ってきた活動内容は、正社員のための求職活動が中心であり、並行して正社員以外の求職活動や資格取得、他の学校へ入学するための勉強などが行われていた。
- ② 中退から就職活動を始めるまでの期間については、中退する前から就職活動をはじめた割合は18.4%、3ヶ月未満が35.8%であったが、中退してから6ヶ月以降に就職活動をはじめた割合も3分の1を占めていた。また就職活動までの期間と中退理由との関連をみると、「進路変更」の場合には中退前が4分の1以上を占めるが、ほかの類型では低く、また病気やケガなどが中退理由の場合には就職活動の開始がかなり遅れていた。
- ③ ハローワークの利用を思い立つ時期は、中退以前から中退後1年未満がおよそ半数である。ハローワークを利用しようと思った時期と就職活動をはじめた時期はおおむね一致して

おり、ハローワークを利用しようとしている層においてはハローワークが就職のための最初の手段として意識されている。

- ④ ハローワークを利用したきっかけは「親」という回答が最も高い。サンプルサイズは小さいが、「学校」がきっかけの場合には中退する前という回答が多く、中退する前にハローワークにつながるには「学校」が重要な役割を果たす可能性がある。
- ⑤ 中退した直後にしたいと思っていたことについては、半数が正社員就職を希望していたが、中退後に正社員のための就職活動をした割合は3割にすぎなかった。また希望と実際の行動が異なる行動として、在学中から行っていたアルバイトを継続したり、アルバイトを探す割合が高いことが見出された。
- ⑥ これまでの就業経験は、非典型一貫が6割弱を占め、正社員と非正社員を両方経験が4分の1、働いた経験がないが1割、正社員のみ経験という割合は5%に満たなかった。若い世代では働いた経験がない者の割合が高く、年齢の上昇にともなって就業経験者が増加するものの、20代後半になっても男性では1割強が就業経験を持っていなかった。中退理由による違いとしては、「進路変更」では比較的安定した就業経験となっているが、病気やケガの場合には不安定な就業経験となっていた。
- ⑦ 支援の利用状況については、調査対象者がハローワーク利用者であるため、様々な公的支援を利用する割合が他の調査よりも高い割合が見られた。ハローワークにつながれば、ハローワークを起点として支援につながっていく可能性がある。
- ⑧ 中退者支援への希望や要望に関する自由記述においては、「相談・サポート体制の充実」、「支援機関や相談機関の周知や拡充」、「職業訓練・インターン・トライアル雇用」、「中退者に対する企業の評価への不満」、「中退時点での情報提供」、「心のケア」、「資格取得支援」、「履歴書書き方等ノウハウの提供」、「収入支援」、「仕事が欲しい」、「積極的な後押し」、「学業への復帰」、「中退者向けの合同説明会・セミナー」、などが寄せられた。特に中退前に学校から情報提供をしてもらいたかったという要望や、中退後に何をしたら良いのか分かるような情報が強く求められていた。